

# Market Flash

2021年8月5日(木)

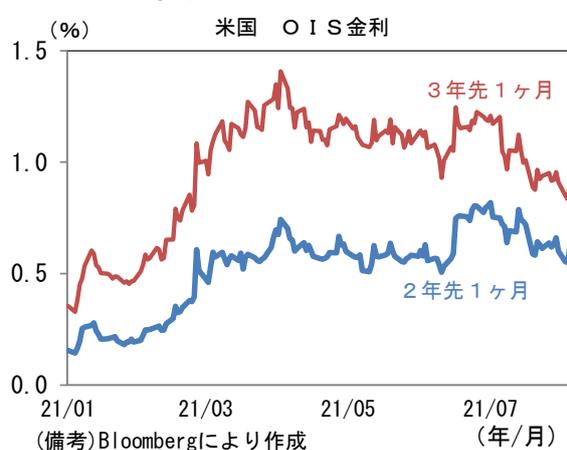
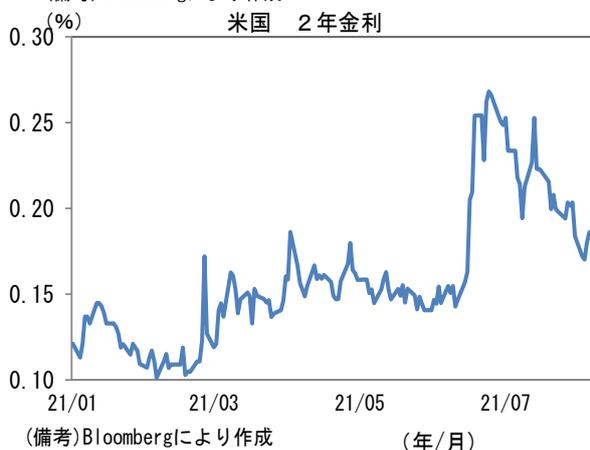
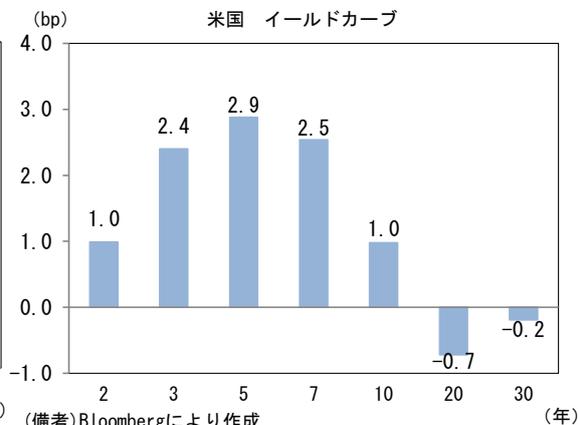
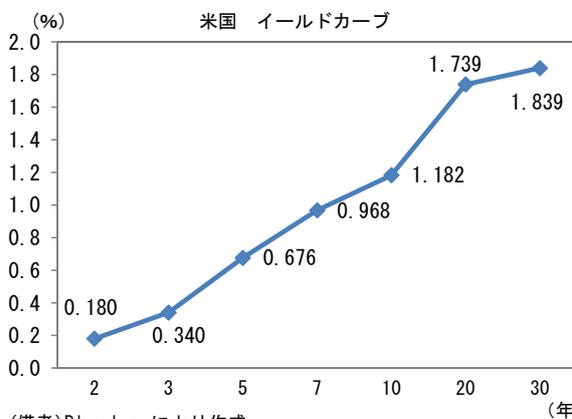
## あえて利上げに踏み込む FED 高官 10年 1.2%はクラリダ・ライン？

第一生命経済研究所 経済調査部  
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL:050-5474-6123)

- ・日経平均は先行き12ヶ月30,000程度で推移するだろう。
- ・USD/JPYは先行き12ヶ月113程度で推移するだろう。
- ・日銀は、現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・FEDは、2022年末までに資産購入を終了、23年後半に利上げを開始するだろう。

### <金融市場>

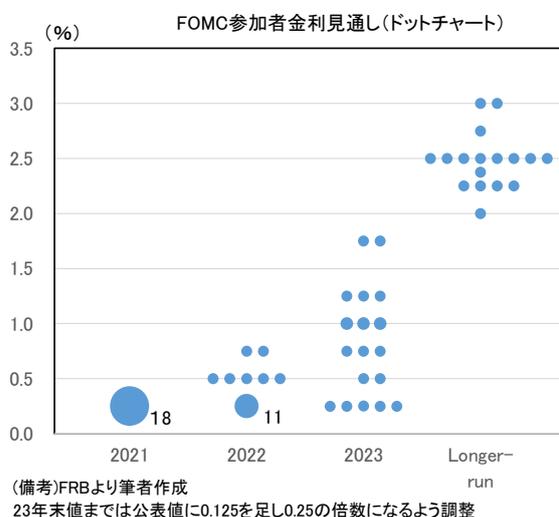
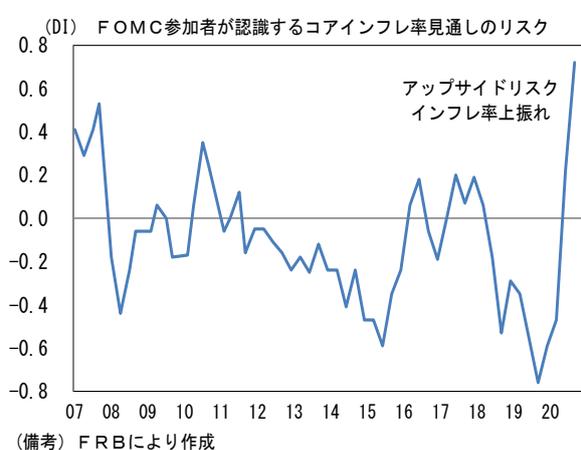
- ・前日の米国市場は下落。NYダウは▲0.9%、S&P500は▲0.5%、NASDAQは+0.1%で引け。VIXは18.0へと上昇。変異株の感染拡大が嫌気され、主力銘柄は利益確定売りに押された。
- ・米金利カーブは中期ゾーンが金利上昇。クラリダ副議長のタカ派発言に反応。利上げ観測が後退していたこともあり、やや大きめの反応がみられた。
- ・為替(G10通貨)はJPYが最弱。USD/JPYは109半ばまで上昇。コモディティはWTI原油が68.2ドル(▲2.4ドル)へと低下。銅は9466.0ドル(▲75.5ドル)へと低下。金は1810.5ドル(+0.4ドル)へと上昇。





能性がある。

- ・またクラリダ副議長は「インフレの見通しに対するリスクは上向きだ」との認識を示し、「2021年のコアインフレ率が3%超となった場合、2%の長期インフレ目標に対する『適度』な超過とはみない」として、インフレ率上振れを警戒する姿勢を示した。ただし、やや長い目でみると、今後、金融政策を読むうえでインフレ率の重要度は低下する可能性が高いと思われる。タカ派色の強かった6月FOMCでは、大半のFOMC参加者が自身のインフレ見通しにアップサイドリスクを認識していることが明らかとなり、市場参加者の間では、今後更にインフレ率が高まればFOMCの総意がタカ派に傾斜すると受け止める向きが多かったが、それは裏を返すと大半のFOMC参加者（クラリダ副議長を含む）が政策金利見通しにインフレ率のアップサイドリスクを織り込んでいたということである。今後インフレ率が予想を上振れたとしても、金融政策に与える追加的な影響は限定的と考えることができる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

